

さあ、世の中ではワールドカップで盛り上がっていますね。この機会にアフリカについての本にふれてみるのはいかがでしょうか？

『エンザロ村のかまど』

さくま ゆみこ 文 沢田 としき 絵 福音館書店 2004年 1300円

科学読物

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★★☆ 小中学年★★★ 小高学年★★☆ 中学生★☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

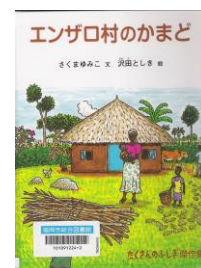
(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

アフリカの中でも赤道のすぐそばにあるケニア。ケニアの中にあるエンザロ村にはガスも水道もありません。それなのに、エンザロ村の晩ごはんは、トウモロコシの粉で作るウガリに、いり卵、やきとうもろこし、ゆでた青菜、骨つきチキン、あげパン、小魚のスープと大変ごうかです。どうしてこんなごうかなごはんが作れるかというと、エンザロ村には「エンザロかまど」とよばれるかまどがあるからです。そして、このかまどを考えたのは岸田袈裟（きしだけさ）さんという日本人なのです。アフリカで愛されている日本に昔から伝わる技術。なぜ、日本人の岸田袈裟さんはアフリカにかまどを作ろうと思ったのでしょうか？それにはアフリカの人々の命を守るという理由がありました。

<子どもに手渡すときのポイント>

アフリカについての本は、物語に絵本、昔話、科学（人類発祥の地とも言われていますね！）の本と実はたくさんあります。けれどもなかなか子どもたちの手にとられていないのが現状です。ワールドカップの南アフリカ開催は子どもたちがアフリカに興味をもつよい機会ではないでしょうか？ぜひ本へと結びつけていただくと嬉しく思います。福岡市総合図書館の子ども図書館では6月末までアフリカに関する児童書の特集展示を行っています。ぜひお立ち寄りください！



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。